

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学統計・解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（11月22日-28日）の新規陽性者数は、11人（先々週8人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における週あたりの実効再生産数(R)は0.79 (95%CrI:0.31, 1.52) (図1)、このうち那覇市の実効再生産数(R)は0.74 (95%CrI:0.09, 2.36)でした。また、宮古は0.74 (95%CrI:0.02, 3.45)、八重山は0.93 (95%CrI:0.03, 4.76)でした。

保健所管轄区域別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部0人（先々週0人）、中部9人（先々週3人）、那覇市1人（先々週1人）、南部1人（先々週4人）、宮古0人（先々週0人）、八重山0人（先々

週0人）でした（図2）。中部において増加傾向となっています。家庭内感染が4人でしたが、その他は感染経路が不明であり、小規模ながらも地域流行が続いているものと考えられます。

渡航者関連

先週の新規陽性者のうち、疫学調査で渡航歴を認めた者はいませんでした。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（11月28日時点）で6人と、1週間で4人増加しています。酸素投与など中等症患者は4人と1週間で2人増加しています。気管挿管など重症患者は、11月10日以降は発生していません（図3）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県内における新型コロナウイルスの流行は、ほぼ小康状態が続いています。ただし、中部地区では感染経路不明の症例が増えており、今後は徐々に増加に転じることも考えられます。今週の新規陽性者数は12-24人と見込みます。一方、入院患者数については、引き続き10人以下と低いレベルが保たれると推定します（図4）。

本土においても、昨年の春以来となる小康状態が続いています。一方、欧米諸国では再流行が始まっており、韓国では患者数が過去最多となる流行となっています。また、南アフリカで新たに確認されたオミクロン株が世界へと拡がりつつあり、デルタ株より感染力が強く、ワクチン効果を低下させる可能性が懸念されています。今後、国内侵

入して第6波を引き起こすことも想定されます。

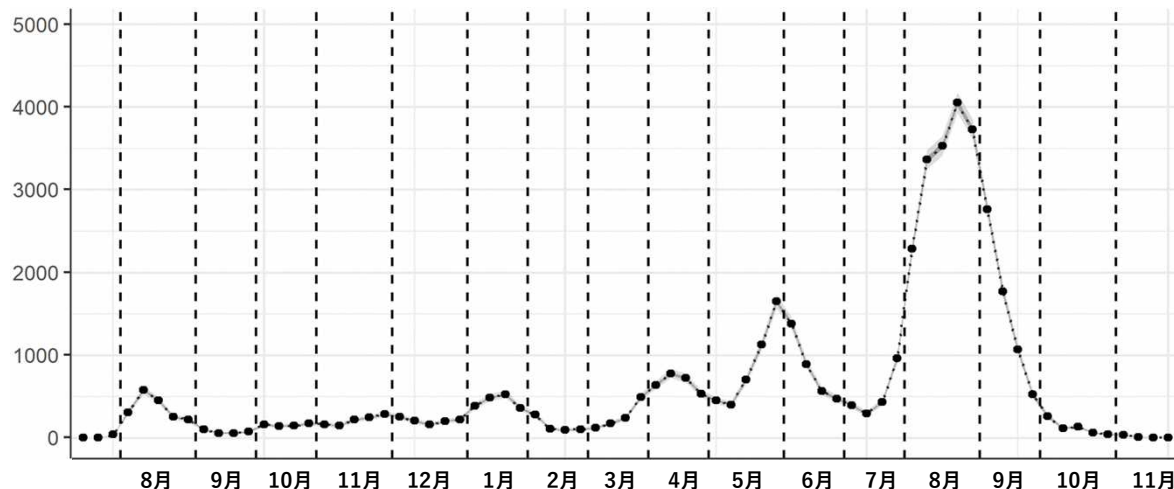
沖縄県では、11月25日より「持続的な感染防止対策の考え方」を改訂しました。これにより、会食における4人以下・2時間以内としていた制限は解除され、イベントにおける収容制限も大幅に緩和されましたが、引き続き、マスク着用や手指衛生など基本的な感染対策の徹底をお願いします。また、発熱などの症状を認めるときは、仕事や学校を休み、外出を自粛するようにしてください。そして、2回のワクチン接種を終えていない方、とくに高齢者については、第6波が発生する前に完了させることを強くお勧めいたします。個人や職場、学校など、それぞれに対策を再確認し、第6波へと備えていただければと思います。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

週あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

週あたり推定値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

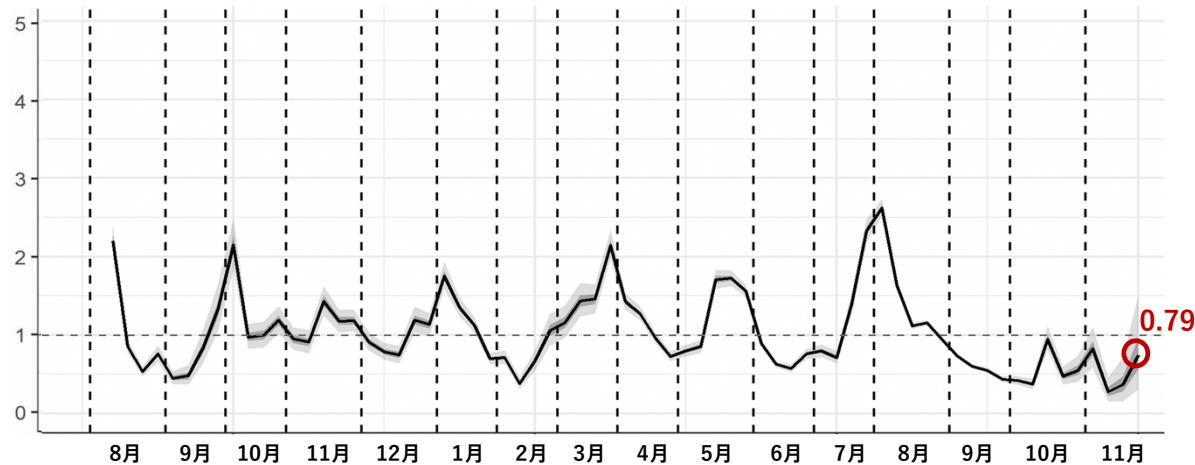


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計

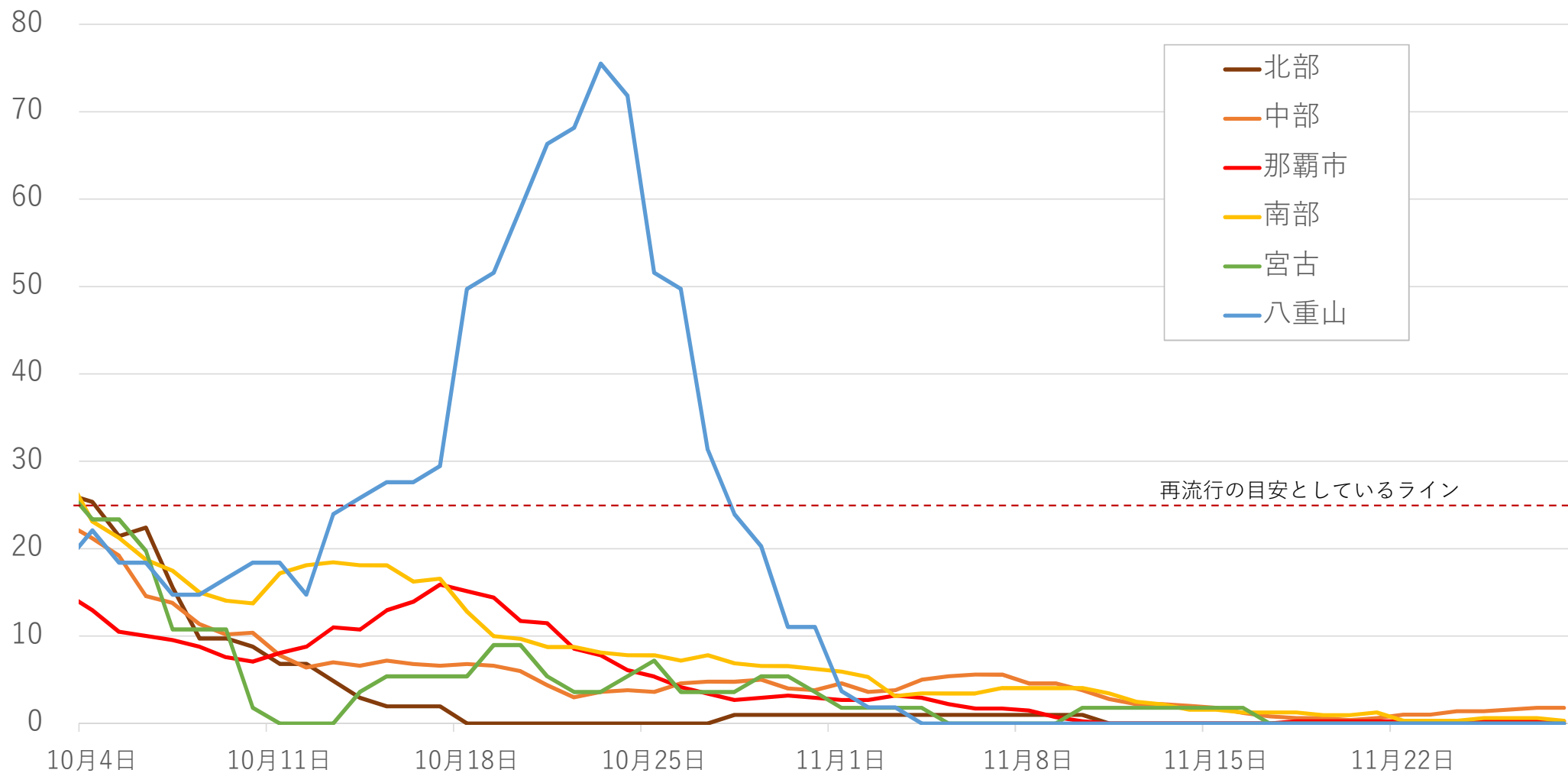


図3 新規陽性者数および重症度別入院患者数

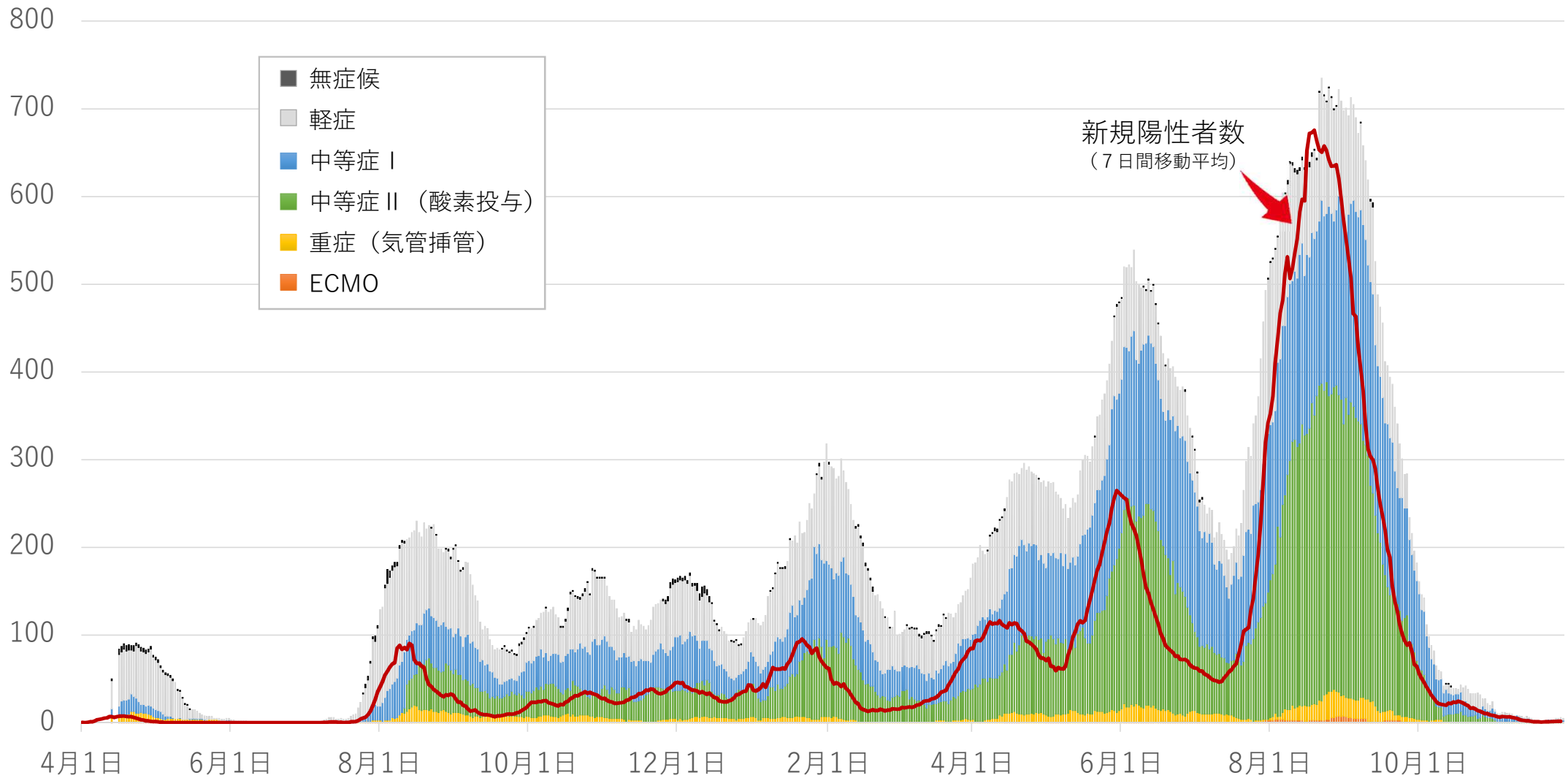


図4 今後1週間（11月29日-12月5日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）			入院患者数※			重症患者数※		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
北部	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
中部	4	9	18	1	2	4	0.1	0.1	0.1
那覇市	0	1	2	0	0	0	0.0	0.0	0.0
南部	1	2	4	0	1	1	0.0	0.0	0.0
宮古	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八重山	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合計	6	12	24	1	3	5	0	0	0

※ 12月5日時点の見込み数